

JAMAHA 今期の方針

昨年度から戦略を変え始めました。シャン州を始めとしてミャンマー国内での保育園建設や職業訓練所の建設完了後の寄付講座で、日本語、介護講座、ビジネスマインド講座等を除き中止しました。徴兵制の布告があり、またおくりだし機関ごとに月間 15 人までの制限などが加わったこともあり、受講生が集まらない状況が起きてきました。もう一つは訓練所の寮費（主に食事代）が高く、誰もが払うということが困難になってきたこともあり、また通学するにしても国軍のチェックポイントがありすぎて、兵舎行きの危険が高まってきたことなどがあります。もう一方では空爆下にあって家を失った青年たちが、父母とともに国内で避難民化している状態がどんどん拡大している状況も。空爆を逃れてタイ側に逃げてきた家族、特に子供達を支援していますが、奨学金の支給基準をしっかり作り、できるだけ多くの子どもたちの支援予算を確保していきます。

◆◆◆ 資金集めについて ◆◆◆

- ①公的財団やビッグカンパニーの NPO,NGO 等の支援部門に申請書を数多く書く。
- ②募金箱を親しいお店におかせて貰う。
- ③街頭募金を在日ミャンマー人の人たちとともに行う等の施策で援助資金の増大を図るとともに、手持ち資金も支援予算に組み入れてゆく。

◆◆◆ 支給方法について ◆◆◆

- ①届きにくいところに、安全確実なルートを通じて細かく支援する体制づくり。
- ②活動の中心人物へ直接届く送金ルートの構築。
- ③講演会やスタディーツアーの実施を通じてメンバーにミャンマー問題学習の機会を作る。
- ④日本語で苦勞しているミャンマーの方がいれば少人数でも講師派遣できるようにしてゆく。

タイ・メソットにおける支援活動の日録

3月5日

午後4時、中尾さんとタイ・スワンナブーム空港で合流、高架鉄道(ARL)の駅近くの両替屋で100万円を両替(222,500B/パーツ) 京都ユネスコ協会からは28,300円、浅井さんから10,000円のご寄付も両替(17,800B/パーツ)、高架鉄道の終点パーティーで中日新聞(=東京新聞)藤川記者と会い、会食。その後夜行バスの出発点モーチットに行き清水さんと合流

3月6日

夜明けの4時に国境警備隊の検問を受ける。5時にメソトバス停に到着。パンヌハウス泊り(6連泊2400B)

かつて大阪府連とNTTの労組が支援していたPARAMI SCHOOLを訪問。BRCJ賛助会員の増田様をご担当されていたので先回と一緒に訪問。「乾杯」の歌の歓迎の後、校長先生や生徒さんからも中断している日本語教室をN3クラスで7月から再開してほしいと要請を受ける。パソコンもプリンターもそろっている状況。教科書の印刷等が必要。富田さんには連絡済み。

その後New blood leaningng schoolを訪問した。校長代理のジョニーさんの要請で3度に分けてカレンニー族の避難民に送金。要請内容は別途郵送(最初はrice80袋一袋60kg、9,600,000チャット=322,536B/パーツ。合計13,818,300チャット分 夜は東京の市民団体LttoCの大場みどりさんと会食

3月7日

朝一番にSさんから紹介されたボーさんと会食。その後SAW財団の議長、エイエイマーさんの講話をお聞きする。「USAidからの支援金を突然打ち切られたせいで軒並み大変苦しい状態である。」ということをいわれた。午後からは援助対象地域のポップラのカレン族の避難民部落を4ヶ所訪問。M家から寄贈を受けた中古の衣料を、大きさ等を見ながら個別の親子に合わせて配布した。避難民部落の中にあった臨時保育園2か所に絵本などを買っていただくために京都ユネスコ子ども食堂部門から寄せられた1万パーツ分を寄付した。また今後の避難民の増加もあってモバイル・エチューション(先生が保育所に出張するスタイル)を試行するということをお聞きして、70000B/パーツも併せて寄付をした。

SAW財団のエイエイマー氏の要請に応じ、100名の中から選ばれた5名の学生の奨学金がトランプのひとことで飛び去ってしまったので、1名だけでも選んで支援してほしいという説明を受け、書類を持ち帰った。今期中に送金を予定する。候補者は男性1名女性4名。将来卒業したらSAW財団に戻って活躍してくれそうな学生さんを選んだという話。理事の皆さんも選考の手伝いをしてほしいと思っている。

午後遅くからメソトに事務所を構えたドキュアタン(Docu Athan)の北角裕樹氏を訪問し、その後一緒に食事をして長い一日を終えた。

3月8日

88世代の現院長のシンシアマウン氏が35年かけてきづき上げてきたNPO運営のメータオ・クリニックを訪問し、USAidの補助金が突然止まって苦慮する病院の運営の一助になればと、副院長に5万パーツの支援金を渡す。その後AAPP(assistance association for political prisoners)は88年以降の政治囚の苦難に満ちた歴史を展示している記念館。独房も再現してある。土曜日の休館日にもかかわらず、中尾先生の御努力で開館していただき見学する。今日は比較的ゆったりしたスケジュールで過ごす。

3月9日

日曜日で関係先はお休みなので、マウンマウンティン氏のご案内で話題のKKパークを遠望する為に遠出を敢行する。途中巨大な寺院(ワットメーターオ)を発見、ほとんど参拝客もおらず、不思議感にとられる。ナイトマーケットで明日から合流される村田氏(NPO Good Life代表)と食事。

3月10日

NBLCでこの地の救援施設(New Blood Learning Center)までどう逃げ延びてきたかの連続インタビューの開始。

3月11日

前日に続き録画をしながらインタビュー。いずれyoutubeで公開予定。このインタビューの速記録をお読みになりたい方はご連絡を頂ければ考えます。

3月12日

皆さんより一日早く帰国

●●● 寄付・ご入会のご案内 ●●●

ミャンマーの子供達が将来豊かな人生を歩むためには教育が重要です。継続できるご支援が不可欠ですので、皆様のご協力を御願ひします。

寄付

ご入会

振込先

都度の寄付

特別会員
100,000円 / 1口

正会員
5,000円 / 1口

保育園の寄付

学生会員
1,000円 / 1口



詳細は公式サイトでご案内しております

将来の子供たちが共存共生のできる豊かで平和な世界へ

● ミャンマーの大地震発生



ミャンマー地震への支援募金活動

2025年4月6日 JAMAHA 近藤理事レポート

今日は京都におけるBRCJさんの募金の定例日でした。出がけに山科に住むMさんからマンダレイに住む両親と連絡がつかないという電話が入りました。良い知らせに代わることを期待しつつ、いつもの募金場所である四条の交差点にゆきました。すでに中尾先生を始めとした沢山の在日のミャンマー人の人たちがおいでになっていました。

1時から4時まできっちりやり切りました。いつもですと「外人さんや観光客が多くて伝わらない」と泣き言を並べて寒さに耐えるのですが、今日は募金箱に向かって近づいてくる方々が多く、私の知る限り最高の募金額でした。やっぱり募金もタイミングなんだということを実感しました。中尾代表は今日早速マンダレイのクレーン会社へ送金をして、機械をつかったの撤去を励んでいただくということをおいでになりました。「昨日の善意が即人助け」という状態になってゆきます。



ジャパンハート創設者・吉岡秀人医師・帰国会見

2025年3月28日 現地時間午後0時50分 ミャンマー中部に位置するザガイン管区を震源地とマグニチュード7.7の地震が発生しました。吉岡医師は、ザガイン管区のワッチェ慈善病院を拠点に活動しており、地震発生当時病院で被災されました。緊急に帰国され、ミャンマー地震支援に関する報告会を開催されました。対象者は報道関係者でしたが、事務局からお誘いいただきました。

吉岡先生は会見の冒頭「この情勢だから医療支援をしているわけではなく、軍政以前から長年活動しています。現在、たまたま、その時代にあたっているだけであり、あくまで中立的な立場をとっています。「今の情勢で、対立する両者とも、今回の災害で被害を受け、お互いに支援を必要としている時に貧困層や年配の方々、子供たちが命を落とさないよう、そういう人達を助けたい」とする気持ちでこの問題に関わってほしい」と話されました。

震源地とされるミャンマーの中部に位置するザガイン管区のワッチェ慈善病院で被災、手術中で全身麻酔をかけた患者を人工呼吸器を使いながら屋外に緊急搬送したほか、施設で2棟あるうちの1棟が崩壊するなどの被害を受けました。「日本と違い建物も耐震対応に乏しく建物全体が崩れ落ちるんじゃないか」と感じたと話された。また、マンダレーのような都市部は、支援物資が集まるが数万人の人口規模の地域では救援物資が届かず医療器具などが不足しているという。先生の病院の医療チームも巡回診療や屋外診療の支援と医療物資や食料配布支援も実施している。

今後は、医療支援を継続しながら、一部崩壊したワッチェ病院の修繕、感染症拡大を予防するための必要物資提供など中長期的に実施していく予定。2週間ほど日本に滞在し現地に戻る予定と話された。

報道関係者との質疑応答で1時間の会見であったが、点滴1本あれば助かる、抗生物質を飲んだら助かる人たちへの支援を訴えた

出席、文責。大上理事



ミャンマー現地活動報告 ～TTM(トムトムミャンマー) 富田さん～

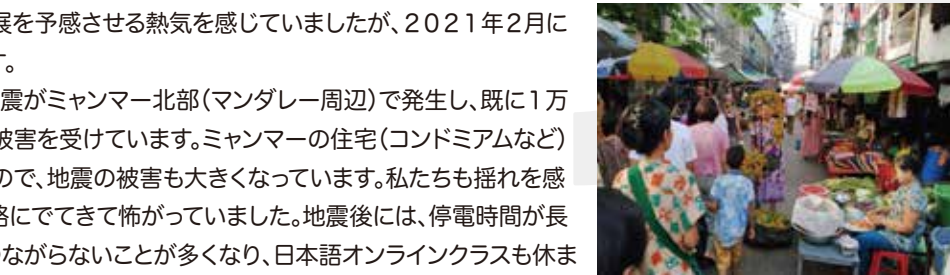
JAMAHAのご支援をいただき、ミャンマーで教育支援活動等を行っているTTM(トムトムミャンマー)富田です。私たち夫婦は、8年前にヤンゴンへ引っ越してきました。この間、7名のTTMスタッフ(ドリームトレイン、AARJapan、お寺などの出身者)に支援を行い、3名がTTMを卒業し、内1名が日本で就労、2名が渡航準備を進めています。2020年2月から、ミャンマーでも新型コロナウイルス感染が流行し、11月にはミャンマー総選挙があり、発展を予感させる熱気を感じていましたが、2021年2月に軍事クーデターが発生し、既に4年が経過しています。

更に2025年3月28日、マグニチュード7.7の地震がミャンマー北部(マンダレー周辺)で発生し、既に1万人以上が被災し、農業インフラや医療施設が大きな被害を受けています。ミャンマーの住宅(コンドミウムなど)の壁は赤レンガを積み重ねているだけのことが多いので、地震の被害も大きくなっています。私たちも揺れを感じましたが、地震に慣れていない地元の皆さんは道路にできて怖がっていました。地震後には、停電時間が長くなり(通電が1日4時間)、電話、インターネットもつながらないことが多くなり、日本語オンラインクラスも休まざるをえませんでした。(水かけ祭りにオンラインクラス再開予定)マンダレーなどの被災地に向けて、「鶏卵」、「消毒薬」などが大量にドネーションされていて、ヤンゴンでは売り切れが多発しています。

繁華街などでは、多くの学生や市民団体が募金活動を行っています。コロナ過以降、経済の停滞も続いていて、海外企業の撤退や事業規模の縮小などで仕事が減り、路上生活者(家族単位のケースもあり)の増加、海外就労希望者の急増などの状況が続いています。※本日、昼食に出かけた時に、路上で昼寝をしている若い男女と赤ちゃんがいました。(二人とも裸足でした)

4月8日には、雷雨があり市場でバダウの花がたくさん売られていました。バダウの花は、日本人の「さくら」に相当するようで、多くの女性がバダウの花を髪に飾り、楽しんでいました。計画停電も続いていて、通電時間もダウンタウンで「4時間×2回／1日」なので、早く回復して欲しいです・・(地方ではもっと停電が多いようです。)

厳しい状況が続いていますが、私たちはこの地で教育支援活動等を継続していきますので、引き続きご支援のほどよろしく願いいたします。



JAMAHA (山口様&ゾーミン様)、TTMスタッフ6名
「夕食をご馳走になり、ありがとうございました。」



TomTomMyanmar の富田夫婦 & スタッフ 4名

インレー地域住民への支援について

地球市民の会柴田様の独自ルートで、インレイ湖のインダー族の方々に、4月10日支援物資をお届けすることができました。

「本日インレー地域に食料と医薬品の支援をしまいいました。食料はマインタウイン村の248世帯に配付をし、医薬品はインレー地域でボランティアで医療行為を行っているナンコンボランティア団体に寄付をしております(薬購入の明細は添付の領収書をご参考ください)。」

医薬品:1,500,000
米(50kg×30袋):4,050,000
米運搬代:232,000
魚入りふりかけ:875,000
豆入りふりかけ:750,000
ふりかけ運搬代:90,000
船借上げ:40,000
合計7,537,000チャット

1ks=0.04円で換算し、
301,480円分です。



おし 日本ミャンマー豊友会 総会のご案内

日時：5月24日(土曜日) 11時00分～12時00分(終了時間は予定)
会場：KKRホテル名古屋(愛知県名古屋市中区三の丸1丁目5-1)



会場案内MAP

南シャン州に支援した施設の現状報告 ～PAO PARAMI 事務局長 Khun Chit Oo～

PAO職業訓練所の活用状況



職業訓練講座(施設活用報告)

	2024/8月	2024/11月	2025/1月	受講者合計
Sewing Training	-	15	40	55
Hotel Housekeeping Training	16	18	21	55
Waiter Waitress Training	24	-	24	48
Nursing assistant course	-	-	20	20
Chinese Language class	13	10	15	38
English Language class	24	15	5	44

被災写真展示・献花・募金活動イベントに参加

ミャンマー中部の大地震をうけて

名古屋久屋大通公園にて4月6日に支援を呼びかけ 被災写真展示、献花や募金活動を実施されましたイベントに参加してきました。

2025年3月28日にミャンマー中部で M7.7 の大地震が発生。被害が広範囲に及ぶとの情報を耳にするたびに家屋の倒壊やインフラ寸断により多くの方々が犠牲になり、食料、水、医薬品、安全な場所を失い、困難な状況に陥ってるミャンマーに寄り添いたいと心から思います。

イベントでは現地の被災写真の展示、献花の販売、募金活動などを実施し、出店の売り上げや集まったお金を現地に送ることを人々に呼びかけていました。本来は春のフェスティバルを行う予定で計画を進めているところに地震が発生し、急遽変更をすることになったそうです。

開催の初めに多くの方々の献花でスタートしました。会場では郷土料理の屋台が 30 軒ほど出店され、会場中央に設置されたテントの中で仲間と楽しい昼食をとる様子は人としての友好の絆を感じました。



ミャンマー大地震のご支援の進捗(4月21日現在)

ミャンマー大地震のご支援、ありがとうございます。81名 1,955,000円をお預かりしています。

ご支援いただいた方々(敬称略)

株式会社エスクロー・エーエージェント・ジャパン／株式会社マネーライフプランニング／株式会社フラスコ100cc／株式会社プラス／株式会社ユニスタイル／株式会社ハッピーマンデー／株式会社リードアルファ／ベレ出版社員有志／松田 憲明／有限会社ヒコ／石塚包装有限会社／社会福祉法人征峯会／田邊税理士事務所／株式会社一清堂／社会福祉法人欣寿会／有限会社Guk／明石 文代／ヒノキブン株式会社／株式会社アミタ／株式会社アシスト不動産／株式会社アシスト／三岳工業株式会社／株式会社防犯住宅／ヒロセ合金株式会社／株式会社ケイテック／丸和機械株式会社／エビス興産株式会社／株式会社モデスティ／株式会社電忠／今井 孔明／山本洋品雑貨株式会社／渡辺 英樹／辻 博之／猪子 恭秀／名古屋ホームズ有限公司／三成産業株式会社／株式会社EMC／旭自動車株式会社／田畑会計事務所／株式会社大塗／水谷 緑／株式会社ハートメディカルグループHD／株式会社ワールド／株式会社現代設計事務所／株式会社のうひ葬祭／金川 文恵／株式会社ヒーロー／株式会社 経営ソフトリサーチ／ジニアス株式会社／(株)菴寅／八田工業株式会社／株式会社アイチ／近藤 秀二／坪井 喜久子／関野自動車有限会社 関野裕樹／株式会社ドリーム産業／株式会社グリーンライフ／水城会計事務所／相互タクシー株式会社／株式会社エム・ティー・ワインズ／カイロスキ株式会社／ASMILE株式会社／紀州技研工業株式会社／株式会社サンコー／秋山通送株式会社／新宮運送株式会社／阪和電子工業株式会社 長谷部 巧／阪和電子工業株式会社 澤田 真典／株式会社大町／社)DAGASHIで世界を笑顔にする会／POPホールディングス株式会社／吉井 勇二／株式会社カネマサ／アイウッド株式会社／渡辺 貞子／株式会社銀座／ZANMAI株式会社／野口 悟／尾崎 公美

ご支援に関する近況報告

4月21日現在までに支援させていただきました団体

- 4/8 ミャンマーファミリークリニックと菜園の会 25万円
- 4/8 地球市民の会を通してインレー湖インダー族への支援 30万円
- 4/12 Chin Funton now Bu団体を通してザガイン地域への支援 20万円